

モチベーションの向上

和田 忠幸



元号が改元されるときでもあり、改めて個々の「モチベーションの向上」について考えてみたいと思います。

【寒地土木研究所の研究基本スタンス】

寒地土木研究所は寒地土木技術に関する我が国唯一の研究所として、全国の積雪寒冷地を見据えた研究開発を進めるとともに、より多くの地域、民間企業、関係機関に当研究所の開発技術が活用され、「研究開発成果の最大化」という国立研究開発法人の第一目的が果たせるよう、講演会の開催や技術相談など研究成果の普及活動に積極的に取り組んでいます。研究活動は、主務大臣から示された中長期目標を達成するための計画を第4期に渡り作成し、今年度はその6年計画の後半に入り、研究開発に重点的集中的に取り組めます。

研究を進めるに当たり「目的と手段を取り違えないこと」、「現場のニーズを最も知るものとしての強みを発揮すること」、「結果をタイムリーに発信すること」という理事長就任挨拶の言葉を胸に刻んでいるところです。

【ニーズ側技術開発】

技術の開発には、シーズ側とニーズ側があります。我々ニーズ技術開発者側では、設定した課題（ニーズ）を解決すべく研究し、「社会実装」されることが目的です。最も使いやすく効率の良い技術を、できれば連携する相手を選ぶことなどで、「社会実装」の速やかで円滑な実現を目指しています。当研究所では、基本的に国土交通と農林水産、両省の関連事業の現場からその課題がもたらされています。現場のニーズを敏感かつ的確に把握し、優れた成果を速やかに提供することで社会への貢献を果たしていくものです。

【イノベーションへの取り組み】

そのような中、異分野との連携によるイノベーションへの対応として、加速しているといわれているAIの活用も視野に入れた維持管理、防災・減災・縮災に貢献する研究にも取り組んでいます。

AIの現状は、これまでの従来型のITシステムが仕様書通りに開発し動くことが前提であることとは異なり、いまだに説明責任を果たすことが難しいようです。

一方、従来から研究されてきている、事前にルールを設定するエキスパートシステムなどの方が適している課題である場合が多々あると共に、ビッグデータの解析能力の向上が、難しい課題をブレイクスルーするための「きづき」に貢献することも期待しています。どの技術を活用する場合でも、研究者の仮説立案能力の確保が前提条件です。

ニーズに対応した仕様や要求をシーズ側に発信しつつ、シーズ技術から提供できる領域と開発コストを踏まえた利用可能な技術を適切に選択すべく、これからも、学びを精進し、慎重に対応していくことを心がけることが求められています。

共同研究の輪がさらに広がるなど、新たな連携によりイノベーションが進展して、寒地土木研究所のミッションである社会への貢献が果たせるよう、社会から期待される組織でありたいと考えています。

【モチベーションアップへの取り組み】

若手研究者の不足という状況を鑑み、昨年度より今年度新規採用者から、国家公務員試験合格を要件としない新たな採用方式を導入しています。研究職を目指す多くの学生等に門戸を拓けることで多様な人材の確保を目指しています。また、大学生等の方々に本所の研究を実感していただくべく、実際に研究施設を見学し研究計画を立案するなど研究実務者と接することができるイベントを複数回開催しました。

所内においては、ジャンルの異なる研究者間の横断的交流を強化し、災害対応の経験、分析技術などの情報、まちづくりの現場の声および研究での悩みなどの共有により、「きづき」の機会を増やそうと、昨年度から試行的に取り組んでいるところです。研究者自身が成長している実感があるからこそ、モチベーションが上がるとも感じています。

テニスの大坂なおみ選手が、夢の世界一の称号を得たのは、古くて新しい地道な体力・精神力づくりにあるようです。

モチベーションの向上を目指す「地道な」取り組みが、組織全体の活性化に貢献することを期待する次第です。